



CHIBA BANK

ミニ・ディスクロージャー誌
平成24年3月期 営業の中間ご報告

2011



第11次中期経営計画

「フロンティア70」について

頭取メッセージ

お客さまに最も身近で、信頼される千葉銀行へ

ちばぎんグループのCSR

「ひと」「環境」「産業」の未来を育むCSR活動



CONTENTS

2 第11次中期経営計画「フロンティア70」

3 頭取メッセージ

5 平成23年9月期 業績のご報告

7 資産健全化と再生支援

8 お知らせ

9 ちばぎんグループのCSR

13 財務諸表(連結)

15 財務諸表(単体)

17 株式の状況

18 ちばぎんネットワーク

Top
Message



CSR



千葉銀行のプロフィール (平成23年9月30日現在)

設立 昭和18年3月

拠点 **国内:** 174店舗
(本支店155、特別出張所5、出張所12、仮想店舗2)
両替出張所 3か所
店舗外現金自動設備 34,808か所
(うちコンビニATM [E-net] 11,191か所、セブン銀行との提携による
共同ATM 14,598か所、ローソンとの提携によるATM 8,757か所)
海外: 3店舗(ニューヨーク、香港、ロンドン)
2駐在員事務所(上海、シンガポール)

従業員数	4,381人
総資産	10兆3,919億円
預金	9兆984億円
貸出金	7兆5,187億円
資本金	1,450億円
発行済株式数	895,521千株
自己資本比率	連結14.13% 単体13.51%

※諸計数は原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。



当行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人全国銀行協会

連絡先 全国銀行協会相談室 電話番号 0570-017109 または 03-5252-3772

第11次中期経営計画

「フロンティア70」

(計画期間：2011年4月1日～2014年3月31日)

お客さま第一主義の下、地域のお客さまのご期待に応えうる
創造性に溢れた「リテールトップバンク」を目指します。

課題

I

営業態勢の強化

地域における当行の存在感を圧倒的なものとするため、営業担当者の役割の明確化や提案力の強化、積極的な営業展開により、シェアの向上を図ります。

課題

II

地域経済への積極的な貢献

金融円滑化への取組みに加え、地域情報の発信機能の向上や産官学連携に向けた主体的な取組みをつうじ、地域経済の復興・発展に向けた貢献を積極的に行います。

課題

III

経営管理態勢の高度化

コンプライアンスの徹底やリスク管理態勢の高度化により、強固な経営基盤を構築します。さらに生産性向上や大胆なコスト削減を進め、当期純利益の引上げを図ります。

課題

IV

人材育成の充実

研修に加え効果的なOJTを実施するなど、人材育成の手法を改善・充実させます。さらに、職員のスキル・適性に応じた配置や女性職員の登用を積極的に行い、組織力を高めます。

コミットメント150

計画期間3年(150週間)の間に、リテールトップバンクを実現するための取組みを150項目定め、確実に実行します。

- ・従来のやり方や経験に安住することなく、全ての業務を新たな視点から見直します。
- ・全役職員の総力を結集し、スピード感をもって実行します。
- ・実施項目は、進捗状況や外部環境の変化に応じて適宜見直し、常に150項目の取組みを実行していきます。

2013年度計数計画

コア業務純益	単体当期純利益	連結当期純利益	OHR	連結自己資本比率 (パーゼルスベース)
880億円	470億円	500億円	50%未満	13%程度

当行は、本計画期間中の2013年3月に70周年を迎えます。

Top Message

 お客様に最も
 身近で、信頼される
 千葉銀行へ



取締役頭取 佐久間 英利

平成23年9月期の決算の状況について

当中間期のわが国の経済を振り返りますと、期初は東日本大震災の影響により、生産や輸出が停滞し、個人消費も落ち込みましたが、サプライチェーンの立て直しが進むにつれ、景気に持ち直しの動きが見られました。一方で、企業の業況判断に対する慎重な見方が広がるなか、厳しい雇用・所得環境が続いたほか、欧州の債務問題や米国の景気後退懸念などから、株価が軟調に推移するとともに、円が対米ドルで戦後最高値を更新しました。千葉県経済につきましても、企業の生産活動や個人消費に改善が見られましたが、原発事故に起因する風評などにより、観光など一部の産業の経営環境には厳しさが残りました。

このような経済環境の下、当中間期につきましては、運用利回りの低下などもありましたが、お取引先への経営支援の取組強化による与信

関係費用の改善などにより、中間純利益は前年同期比3億円増加の230億円、連結中間純利益は前年同期比1億円増加の234億円となりました。また、連結自己資本比率は14.13%、連結Tier I比率は12.81%となりました。中間配当金につきましては、安定配当の考え方を維持し、一株当たり5円50銭としました。なお、株主還元強化の観点から、5月から6月にかけて1,200万株の自己株式を取得しました。

第11次中期経営計画「フロンティア70」の進捗状況について

第11次中期経営計画「フロンティア70」がスタートし、半年が経過しました。

東日本大震災により影響を受けたお客さまに対しましては、各種制度融資も活用して資金ニーズに積極的に応えたほか、平日は全店に、休日

は被災地域の支店及びコンサルティングプラザに相談窓口を開設し、万全の態勢により支援に努めてまいりました。また、本業であります金融仲介機能の発揮に加えて、農産品販売フェア「ちばぎんマルシェ」の開催、「がんばろう千葉 観光応援定期預金」の取扱いなど、地域経済が一刻も早く復興できるよう、さまざまな取組みを実施しました。

営業面では、6月に「越谷レイクタウン支店」を開設するなど、発展が期待できる地域への出店を進めたほか、今後成長が見込める分野への取組みを推進しました。特に、お客さまの節電に対する意識の高まりを受け、「省エネ診断」や「国内クレジット制度」を活用した支援を開始するなど、環境面での取組みを強化しました。また、アジア各地に営業基盤を有する「スタンダードチャータード銀行」との提携や人民元建て貿易決済業務の取扱いなどを新たに開始し、お客さまの海外進出をサポートする態勢を充実させました。さらに、投資信託や生命保険の品揃えの充実、コンサルティングプラザに配置している保険専門人員の増員などをつうじて、より幅広い金融ニーズにお応えできる態勢としたほか、当行が9月に発行した無担保社債（劣後特約付）については「ちばぎん証券」を引受証券会社に加え、金融商品仲介の仕組みをつうじて、多くのお客さまにご購入いただきました。

行内態勢面では、自己資本比率規制をはじめとした銀行監督規制の強化に的確に対応することはもちろんのこと、将来の環境変化に耐えうる磐石な経営基盤を構築するため、IT投資等による業務改革を進めています。例えば現在導入を進めている新営業店システムでは、複数の

地方銀行によるシステム共同化スキームである「TSUBASA(翼)プロジェクト」に参加し、開発コストを抑えながら、タッチパネルやナビゲーション機能を取り入れることで、より効率的でお客さまにご満足いただける業務運営が可能となります。

今後 千葉銀行が目指すもの

千葉県及びその隣接地域である「広域千葉圏」は、成田国際空港の発着枠拡大や圏央道の延伸等を控え、既に各地でさまざまな開発が発展しており、長期的には本来の成長力を取り戻していくものと考えています。このような地域の発展に当行が主体的に貢献していくことで、地域と共に持続的な成長を目指してまいります。

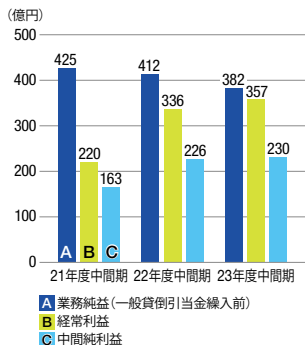
また、このような成長を確固たるものにするためには、従業員一人ひとりが一層能力を高め、それを最大限に発揮することが必要です。本年度より、新入行員の研修カリキュラムに「農業体験」「座禅修行」を取り入れ、協働意識・規律意識を持つ人材の育成に努めています。さらに、10月には「女性活躍サポートチーム」を立ち上げ、女性行員のさらなる意欲向上と活躍に向けた環境整備を図ってまいります。

このような取組みをつうじて、お客さま第一主義の下、地域のお客さまのご期待に応えうる創造性に溢れた「リテールトップバンク」を目指してまいりますので、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 **佐久間 英利**

損益の状況

損益の状況



貸出金残高は増加しましたが、運用利回りの低下により、業務純益(一般貸倒引当金繰入前)は前年同期比29億円減少し、382億円となりました。経常利益は前年同期比20億円増加し357億円、中間純利益は3億円増加し230億円となりました。

用語解説

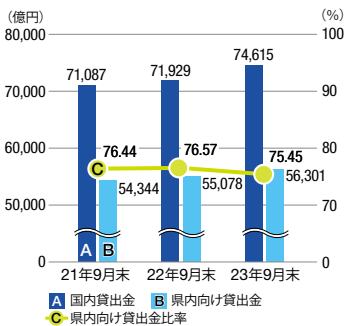
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)

業務純益(一般貸倒引当金繰入前)とは、預金・貸出金など銀行の基本的な業務の成果を示す銀行固有の利益指標です。これは、預金・貸出金などの収支を示す「資金利益」、各種手数料収支を示す「役務取引等利益」、市場業務取引等の損益を示す「特定取引利益」、債券や外国為替の売買損益を示す「その他業務利益」の4つを合計した「業務粗利益」から、臨時経費を除く「経費」を控除したものです。

なお、この業務純益(一般貸倒引当金繰入前)は、損益計算書の中には記載されません。

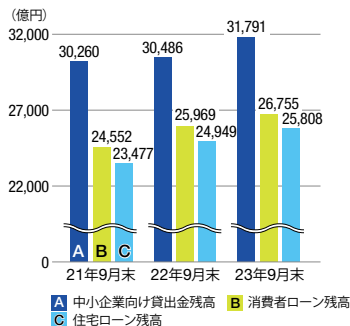
貸出金等の状況

貸出金の状況



地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、中小企業向け貸出金や住宅ローンが堅調に推移し、国内貸出金は前年同期比2,686億円増加し、7兆4,615億円、県内向け貸出金は前年同期比1,222億円増加し、5兆6,301億円となりました。

中小企業向け貸出金・消費者ローンの状況

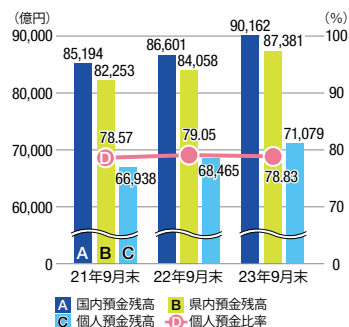


金融円滑化に向けた取組みはもちろんのこと、中小企業のお客さまへのコンサルティング機能の強化に努めました結果、中小企業向け貸出金残高は、前年同期比1,305億円増加し、3兆1,791億円となりました。また、お客さまの住宅資金ニーズに積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は前年同期比858億円増加し2兆5,808億円となりました。

※中小企業には個人事業主も含めております。

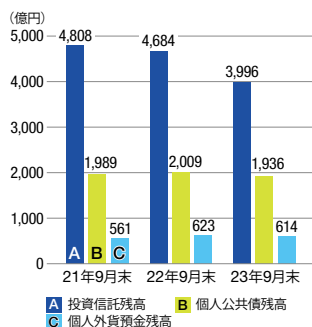
預金等の状況

預金の状況



預金につきましては、給与振込口座や年金受取口座など「家計のメインバンク」としてご利用いただくことを目指して活動しました結果、個人預金残高は前年同期比2,614億円増加し、7兆1,079億円となりました。

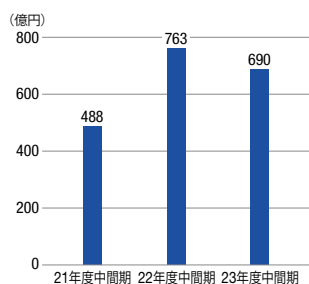
投資型金融商品の状況



投資信託につきましては、販売額は増加したものの、株式市況の低迷に伴う基準価額の下落により、残高が前年同期比688億円減少し、3,996億円となりました。

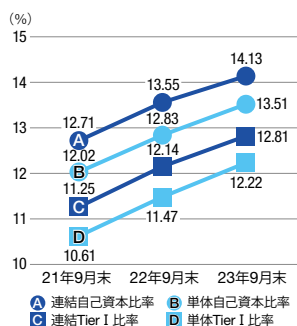
また、お客さまのご要望に沿った商品提案を行った結果、個人年金保険の取扱保険料は、690億円となりました。

個人年金保険 (取扱保険料) の状況



自己資本比率等の状況

自己資本比率・Tier I比率



当行の自己資本比率は、連結で14.13%、単体では13.51%となり、海外に拠点を持つ銀行に求められる国際統一基準8%以上を充たす十分な水準にあります。また、Tier I比率は連結で12.81%、単体では12.22%となりました。

用語解説

自己資本比率

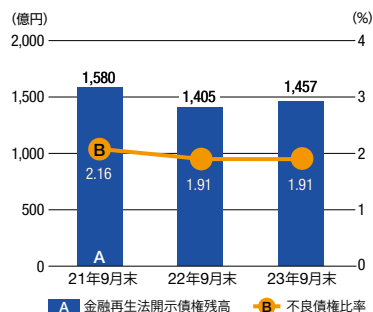
金融機関の健全性を示すものとして最も広く用いられている指標です。当行のように海外に営業拠点を持つ銀行は、自己資本比率を国際統一基準である8%以上にすることが求められています。

金融再生法開示債権の状況

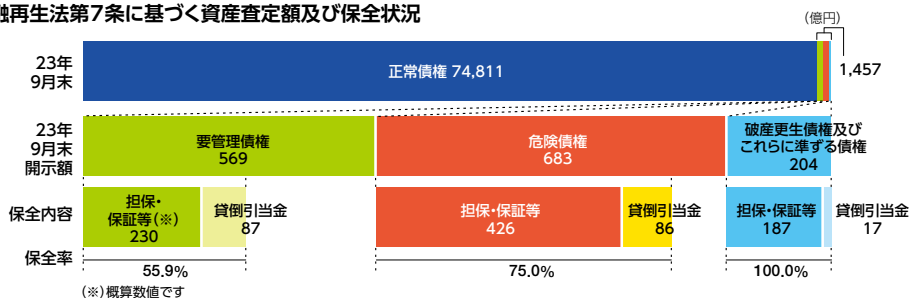
平成23年9月末時点の金融再生法開示債権残高は、1,457億円となりました。また、不良債権比率は1.91%となっています。

引き続き営業店と本部が連携し、中小企業再生支援協議会等の外部機関も活用しながら、お客さまの経営改善に向けた取組みの支援を進めてまいります。

不良債権の推移



金融再生法第7条に基づく資産査定額及び保全状況



用語解説

要管理債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」を除く3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権です。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権です。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

金融円滑化に向けた取組み

当行は、地域金融機関として金融サービスの提供をつうじて、地域のお客さまのニーズにお応えし、地域の発展に貢献するという役割・使命を果たす姿勢を堅持しています。特に、地域への円滑な資金供給をはじめとする金融仲介機能の強化やお客さまへの経営健全化支援等による地域密着型金融の実践については、従来から最も重要な経営課題として位置づけ、各種施策に積極的に取り組んでまいりました。

このようななか、現在の厳しい経済・雇用環境や、お客さまのお借入負担の状況などに鑑み、より一層お客さまの声に真摯に耳を傾け、適切にお客さまのご相談に対応してまいります。また、中期経営計画にも掲げる「お客さま第一主義」を徹底し、今後もコンサルティング機能を発揮した営業展開を実践してまいります。

「がんばろう千葉」キャンペーンへの取組み

当行は、東日本大震災復興支援の一環として、千葉県が実施する「がんばろう千葉」キャンペーンに参加し、地域と一体になって千葉県を元気にしてまいります。

■寄付

当行は、役職員及びグループ会社とともに、千葉県へ復興支援にかかる寄付を実施しました。

寄付内容	寄付額
本店食堂メニューの売上代金にかかる寄付*	221,060円
節電ビス対応ポロシャツの販売代金にかかる寄付	509,136円
合計	730,196円

※平成23年6月から8月までの3ヶ月分です。この取組みは今後も継続してまいります。

■ちばぎんマルシェの開催

平成23年5月、千葉県産品の風評被害を払拭し、農業生産者・食品加工業者を応援する取組みとして「ちばぎんマルシェ」を開催しました。当日は、約3千人のお客さまが来場し、新鮮な野菜や菓子などをお買い求めいただきました。



店舗オープンのご紹介

お客さまに便利でやさしく、安心してご利用いただける店舗づくりを積極的に行っています。

■リニューアル コンサルティングプラザ千葉

オープン日：10月24日
場所：千葉市中央区
富士見2-3-1

個室の相談ブースやセミナールーム、専門家による税務・法務の相談ブース(要予約)を設置。



■移転 木更津東支店

オープン日：11月7日
場所：木更津市
ほたる野4-4-9

駐車場を約70台備えたほか、キッズコーナーやバリアフリー対応の多目的トイレを設置。



「TINTIN&SNOWY」の映画化

「TINTIN&SNOWY」は当行が平成8年より15年間使用しているキャラクターです。今般、巨匠ステイヴン・スピルバーグとピーター・ジャクソンにより3D実写版として映像化され、平成23年12月1日より米国に先行して公開されました。



映画公開を記念して、
スペシャルサイトをオープン!



タンタンの冒険
★ユニコン号の秘密★

地域と、全力。 ちばぎんグループのCSR。

ちばぎん
未来を育む
宣言



ちばぎんグループにおける取組み

ちばぎんグループは、本業等をつうじて全てのステークホルダーの皆さまからの期待にお応えするとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献できるよう「グループCSR活動方針」を掲げ、グループ役職員一丸となってCSR活動に取り組んでいます。

グループ CSR 活動方針

ちばぎんグループは、持続可能な地域社会実現のため、金融仲介機能の発揮等の本業に加え、誠実かつ公正な企業活動、気候変動等環境問題など地域社会を取り巻く様々な課題解決に向けた活動等に、グループ役職員一人ひとりが当事者という意識を持って、積極的に取り組んでまいります。

そして、これら当行グループの取組みの情報開示をつうじ、ステークホルダーの皆さまとのより良い関係作りに注力いたしますとともに、「新たな地域社会の姿」を皆さまと描いてまいります。

ちばぎんグループのCSRコンセプト

ちばぎんグループは、持続可能な地域社会実現のため、CSR活動に積極的に取り組んでまいります。

お客さま満足度(CS)の向上 コンプライアンス

金融仲介機能の発揮 (本業)

地域密着型金融の推進、金融円滑化への対応等、地域への円滑な資金供給に注力してまいります。

地域社会への貢献 (社会貢献活動)

「未来を育む」をキーワードに、「ひと」「環境」「産業」の育成に資する社会貢献活動を展開してまいります。

人材育成の強化

役職員一人ひとりが、お客さまのニーズに的確にお応えできる意識・スキルを身に付けてまいります。

「ひと」の未来を育む



職場体験の受入れ

地域の中学生・高校生を対象に、働くことの意義や銀行業務に対する関心を高めてもらふことを目的として、職場体験の受入れを行っています。また、財団法人経済広報センターが主催する「教員の民間企業研修」の一環として、先生方を対象に銀行業務や、接客等に関する研修を実施しています。



本店見学



お札の数え方の練習



教員による窓口対応の練習

ちばぎんひまわりコンサートの開催

地域のお客さまと音楽をつうじてふれあうことを目的に、平成元年より「ちばぎんひまわりコンサート」を開催しています。毎回多彩なアーティストを迎え、魅力あふ

れるステージをお届けしています。



第43回(平成23年7月9日)の様様。当行のCMイメージソングを歌う川嶋あいさん



公益信託ちばぎんハートフル福祉基金

千葉県内の社会福祉法人・ボランティア団体等の皆さまが行う社会福祉活動を、資金面からお手伝いすることを目的に、平成21年に設定しました。平成22年には14団体に約8百万円、平成23年には15団体に約8百万円の助成金を交付しました。

「夏休み子ども元気村」への協賛

東日本大震災で被災し千葉県内に避難している子供達が、自然体験活動をつうじて元気になることを目的に、NPO法人千葉自然学校主催の「夏休み子ども元気村」が実施されました。当行は、本事業の趣旨に賛同し、協賛とあわせて職員ボランティアによる運営サポートを行いました。





「環境」の未来を育む

「ちばぎん省エネ・ECOセミナー」の開催

平成23年9月、企業の皆さまへ省エネに関する情報や、具体的な手法を提供することを目的に「ちばぎん省エネ・ECOセミナー」を開催しました。当日は、省エネ診断を活用した事例の紹介や、省エネ診断業者との商談会を行いました。



役職員・OBによる美化・緑化活動

当行役職員・OBで構成するボランティア組織「Vネットクラブ」では、九十九里浜・印旛沼をはじめ県内各地でのクリーンウォーク活動のほか、店舗周辺の清掃活動や「ちばぎんの森」森林整備活動などを行っています。



九十九里浜



長生郡白子町(ちばぎんの森 第3)

「国内クレジット制度」活用に向けた支援

国内クレジット制度の活用を目指す企業の皆さまへ、CO₂排出削減事業計画の承認にかかわる支援企業をご紹介します。また、削減されたCO₂が国内クレジットとして承認された場合は、お客さまからの買入(換金)も行っています。

国内クレジット制度とは



中小企業等が省エネ設備の導入等により削減したCO₂を、転売・流通できるクレジット(権利)として国から承認を受け、大企業等の温室効果ガス排出削減義務者等に売却することで、日本国内全体のCO₂排出量を削減しようとする制度です。



ペットボトルキャップの回収運動

平成22年2月より、CO₂の排出量削減等に寄与することを目的として、ペットボトルキャップの回収運動を実施しています。当行及びグループ会社の役職員だけでなく、地域のお客さまにもご参加いただいております。

回収実績

回収時期	回収個数
第1回 平成22年 7月	734,000個
第2回 平成22年11月	1,596,800個
第3回 平成23年 3月	1,085,600個
第4回 平成23年 7月	1,857,600個
累計	5,274,000個



※リサイクルの対価は、発展途上国の子どものワクチン代として役立てられています。

「産業」の未来を育む



各種商談会の開催

お客さまの販路拡大や地域経済の発展を目的に、各種商談会を開催しています。お客さまから「有意義な機会だった。次回もぜひ参加したい。」といった声をいただいております。



地方銀行フードセレクション2011(平成23年11月1日～2日)の模様
地方銀行36行と合同で食の展示商談会を開催
試飲・試食をつうじて自社商品をPR



ちばぎんアグリ商談会(平成23年7月29日)の模様
千葉県内の農業生産者と食品関連企業との商談会を開催
農業生産者が新鮮な農産物をPR

ひまわりベンチャー育成基金

千葉県内のベンチャー企業支援を目的に、平成10年より助成金交付事業を展開しています。平成23年7月までの助成先累計は140先、交付総額は4億2千万円となりました。



「公的支援策 使いこなしセミナー」の開催

平成23年11月、お客さまに公的支援制度への理解を深めていただくことを目的に、「公的支援策 使いこなしセミナー」を開催しました。第1部の講演会では各種公的支援策の制度概要を説明し、第2部では公的支援策活用に関する個別相談会等を実施しました。

海外ビジネス支援セミナーの開催

お客さまの海外への販路拡大や、海外進出のサポートを目的に、各種セミナーを開催しています。今後も、海外ビジネスに関する情報提供のほか、貿易取引や海外向けファイナンスなど、国際業務の総合的なサポートを行ってまいります。

セミナーの概要

セミナー名	開催日	講演内容
中国主要都市ビジネスセミナー	平成23年 6月22日～24日	中国ビジネスについて等
第1回海外進出セミナー	平成23年 8月 1日～ 2日	タイの投資環境と日系企業の動向について
第2回海外進出セミナー	平成23年 9月14日	ベトナムでの事業戦略について
上海ビジネス交流会(他行と共催)	平成23年11月 7日	中国駐在員のマネジメントについて等

■ 中間連結貸借対照表 (単位: 百万円)

科 目	平成22年9月末	平成23年9月末	科 目	平成22年9月末	平成23年9月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	201,620	356,402	預金	8,732,732	9,063,241
コールローン及び買入手形	75,925	69,771	譲渡性預金	185,791	225,992
買現先勘定	49,990	29,993	コールマネー及び売渡手形	60,311	18,319
買入金銭債権	40,153	33,879	売現先勘定	44,995	—
特定取引資産	326,201	279,926	債券貸借取引受入担保金	54,724	48,064
金銭の信託	28,343	28,894	特定取引負債	36,483	32,516
有価証券	1,935,101	1,865,519	借入金	166,090	173,290
貸出金	7,210,471	7,493,147	外国為替	279	415
外国為替	2,039	2,427	社債	40,000	40,000
その他資産	112,164	100,595	その他負債	103,734	89,127
有形固定資産	96,327	96,358	退職給付引当金	19,128	19,375
無形固定資産	9,330	10,092	役員退職慰労引当金	207	201
繰延税金資産	50,159	45,208	睡眠預金払戻損失引当金	694	689
支払承諾見返	99,572	89,621	ポイント引当金	1,103	421
貸倒引当金	△ 55,379	△ 47,110	特別法上の引当金	18	17
			繰延税金負債	1	—
			再評価に係る繰延税金負債	15,245	15,158
			支払承諾	99,572	89,621
			負債の部合計	9,561,115	9,816,453
			(純資産の部)		
			資本金	145,069	145,069
			資本剰余金	123,380	123,377
			利益剰余金	332,396	363,494
			自己株式	△ 1,269	△ 12,158
			株主資本合計	599,576	619,782
			その他有価証券評価差額金	2,975	△ 1,320
			繰延ヘッジ損益	△ 2,534	△ 1,772
			土地再評価差額金	7,662	7,548
			その他の包括利益累計額合計	8,102	4,455
			新株予約権	36	155
			少数株主持分	13,191	13,880
			純資産の部合計	620,907	638,274
資産の部合計	10,182,022	10,454,728	負債及び純資産の部合計	10,182,022	10,454,728

■ 中間連結損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	平成22年4月 1日から 平成22年9月30日まで	平成23年4月 1日から 平成23年9月30日まで
	平成22年9月期	平成23年9月期
經常収益	113,982	118,127
資金運用収益	77,197	73,914
(うち貸出金利息)	(65,882)	(63,310)
(うち有価証券利息配当金)	(10,745)	(9,762)
信託報酬	0	0
役務取引等収益	20,288	20,046
特定取引収益	999	848
その他業務収益	3,912	3,635
その他經常収益	11,583	19,681
經常費用	77,386	80,629
資金調達費用	7,486	6,011
(うち預金利息)	(4,631)	(3,177)
役務取引等費用	7,592	7,795
その他業務費用	318	1,055
営業経費	43,661	43,502
その他經常費用	18,328	22,263
經常利益	36,595	37,498
特別利益	3,292	7
固定資産処分益	1	7
償却債権立替益	3,281	—
金融商品取引責任準備金取崩額	9	0
特別損失	608	303
固定資産処分損	211	302
減損損失	153	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	243	—
税金等調整前中間純利益	39,279	37,202
法人税、住民税及び事業税	10,395	8,352
法人税等調整額	5,178	5,051
法人税等合計	15,573	13,403
少数株主損益調整前中間純利益	23,706	23,799
少数株主利益	384	328
中間純利益	23,321	23,470

【平成23年9月期注記】

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 貸出金のうち、破綻先債権額は2,921百万円、延滞債権額は85,431百万円、3カ月以上延滞債権額は5,439百万円、貸出条件緩和債権額は51,541百万円、ならびにその合計額は145,335百万円であります。
- 銀行法施行規則第17条の5第1項第3号口に規定する連結自己資本比率(国際統一基準) 14.13%
- 有形固定資産の減価償却累計額 93,019百万円
- 担保に供している資産として、有価証券、貸出金合計額 913,227百万円
- 1株当たりの純資産額 716円11銭
- 重要な後発事象
当行及び当行連結子会社のちばぎん証券株式会社(以下「ちばぎん証券」という。))は、平成23年10月1日を効力発生日として、当行を完全親会社、ちばぎん証券を完全子会社とする株式交換を行いました。当該株式交換は共通支配下の取引等であり、その概要は以下のとおりです。
 - ・取引の概要
 - ①結合当事業の名称及びその事業の内容
名 称 ちばぎん証券株式会社
事業の内容 証券業
 - ②企業結合日 平成23年10月1日
 - ③企業結合の法的形式
当行を完全親会社、ちばぎん証券を完全子会社とする株式交換
 - ④結合後企業の名称
結合後企業の名称に変更ありません。
 - ⑤その他取引の概要に関する事項
金融商品の高度化、お客さまのニーズの多様化などにグループ一体となって適時・的確に対応し、意思決定を一層迅速化することを目的としております。
 - ・実施した会計処理の概要
「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引等として処理しております。
 - ・子会社株式の追加取得に関する事項
 - ①取得原価及びその内訳
取得原価 4,999百万円
(内訳) 自己株式 4,950百万円
取得に直接要した費用 49百万円
 - ②株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付株式数
 - (1)株式の種類別の交換比率
当行普通株式 0.5株:ちばぎん証券普通株式1株
 - (2)交換比率の算定方法
株式交換比率の公正性・妥当性を確保するため、当行は野村證券株式会社を、ちばぎん証券はフロンティア・マネジメント株式会社を、株式交換比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し算定を依頼しました。かかる算定結果を参考に、当行及びちばぎん証券で株式交換比率について慎重に交渉・協議を重ねた結果、上記記載の株式交換比率が妥当であるとの判断に至り、合意・決定いたしました。
 - (3)交付株式数 8,625千株
 - ③発生した負ののれんの金額及び発生原因
 - (1)発生した負ののれんの金額 3,408百万円(暫定値)
 - (2)発生原因 結合当事業にかかるとの当行持分額と取得原価との差額による。
- 1株当たり中間純利益金額 26円80銭
- 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 26円78銭
- 中間連結包括利益計算書における中間包括利益の金額 23,050百万円

■ 中間貸借対照表 (単位: 百万円)

科目	平成22年9月末	平成23年9月末	科目	平成22年9月末	平成23年9月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	201,273	355,749	預金	8,765,676	9,098,477
コールローン	72,925	65,771	譲渡性預金	185,791	225,992
買現先勘定	49,990	29,993	コールマネー	60,311	18,319
買入金銭債権	33,884	24,597	売現先勘定	44,995	—
特定取引資産	325,853	279,614	債券貸借取引受入担保金	54,724	48,064
金銭の信託	25,443	25,594	特定取引負債	36,483	32,516
有価証券	1,935,517	1,865,923	借入金	164,700	172,460
貸出金	7,233,996	7,518,710	外国為替	279	415
外国為替	2,039	2,427	社債	40,000	40,000
その他資産	67,309	56,700	その他負債	70,680	55,199
有形固定資産	89,900	91,041	未払法人税等	9,057	7,141
無形固定資産	9,183	9,937	資産除去債務	227	227
繰延税金資産	42,123	36,999	その他の負債	61,395	47,829
支払承諾見返	72,168	64,747	退職給付引当金	18,670	18,867
貸倒引当金	△ 43,783	△ 35,817	睡眠預金払戻損失引当金	694	689
			ポイント引当金	845	169
			再評価に係る繰延税金負債	15,245	15,158
			支払承諾	72,168	64,747
			負債の部合計	9,531,266	9,791,076
			(純資産の部)		
			資本金	145,069	145,069
			資本剰余金	122,134	122,134
			資本準備金	122,134	122,134
			利益剰余金	312,480	341,336
			利益準備金	50,930	50,930
			その他利益剰余金	261,550	290,405
			別途積立金	230,971	260,971
			繰越利益剰余金	30,579	29,434
			自己株式	△ 1,269	△ 12,158
			株主資本合計	578,414	596,380
			その他有価証券評価差額金	2,982	△ 1,397
			繰延ヘッジ損益	△ 2,534	△ 1,772
			土地再評価差額金	7,662	7,548
			評価・換算差額等合計	8,109	4,378
			新株予約権	36	155
			純資産の部合計	586,560	600,914
資産の部合計	10,117,826	10,391,990	負債及び純資産の部合計	10,117,826	10,391,990

■ 中間損益計算書 (単位：百万円)

科 目	(平成22年4月 1日から 平成22年9月30日まで)	(平成23年4月 1日から 平成23年9月30日まで)
	平成22年9月期	平成23年9月期
経常収益	100,990	108,020
資金運用収益	76,998	73,944
(うち貸出金利息)	(65,453)	(62,965)
(うち有価証券利息配当金)	(11,061)	(10,206)
信託報酬	0	0
役務取引等収益	16,209	16,010
特定取引収益	734	618
その他業務収益	3,910	3,634
その他経常収益	3,137	13,812
経常費用	67,322	72,274
資金調達費用	7,488	6,004
(うち預金利息)	(4,650)	(3,185)
役務取引等費用	8,819	8,975
その他業務費用	318	1,055
営業経費	41,063	40,943
その他経常費用	9,632	15,295
経常利益	33,668	35,746
特別利益	4,079	7
特別損失	583	275
税引前中間純利益	37,165	35,478
法人税、住民税及び事業税	8,932	7,077
法人税等調整額	5,626	5,399
法人税等合計	14,558	12,477
中間純利益	22,606	23,001

【平成23年9月期注記】

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 貸出金のうち、破綻先債権額は3,249百万円、延滞債権額は85,287百万円、3カ月以上延滞債権額は5,439百万円、貸出条件緩和債権額は51,491百万円、ならびにその合計額は145,467百万円であります。
- 銀行法施行規則第19条の2第1項第3号ロ(10)に規定する単体自己資本比率(国際統一基準) 13.51%
- 有形固定資産の減価償却累計額 89,344百万円
- 担保に供している資産として、有価証券、貸出金合計額 912,597百万円
- 1株当たりの純資産額 689円18銭
- 1株当たり中間純利益金額 26円26銭
- 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 26円25銭

株式の所有者別状況

平成23年9月30日現在

区分	株主数 (人)	所有株式数 (単元)	割合 (%)	
政府・地方公共団体	2	9	0.00	
金融機関	113	416,191	46.73	
金融商品取引業者	33	15,184	1.70	
その他の法人	1,313	129,435	14.53	
外国法人等	個人以外	427	187,178	21.01
	個人	—	—	—
個人その他	24,739	142,816	16.03	
計	26,627	890,813	100.00	

- (注) 1. 1単元の株式数は1,000株です。なお、上記のほか、単元未満株式は4,708,087株となっております。
2. 自己株式23,821,250株は「個人その他」に23,821単元、単元未満株式に250株含まれております。なお、自己株式23,821,250株は株主名簿上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は23,820,250株です。
3. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会の議決権：毎年3月31日

期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

公告方法

電子公告

(当行ホームページ <http://www.chibabank.co.jp/>)
ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人・事務取扱場所

〒103-8202

東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号

日本証券代行株式会社 本店

お問い合わせ先 ☎0120-707-843

大株主上位10名

平成23年9月30日現在

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	66,745	7.45
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	49,631	5.54
株式会社三菱東京UFJ銀行	35,326	3.94
日本興亜損害保険株式会社	29,905	3.33
日本生命保険相互会社	29,177	3.25
第一生命保険株式会社	25,678	2.86
住友生命保険相互会社	17,842	1.99
明治安田生命保険相互会社	15,579	1.73
千葉銀行職員持株会	12,167	1.35
株式会社京葉銀行	10,046	1.12

- (注) 1. 上記の他、株式会社千葉銀行名義の自己株式23,820千株(2.65%)があります(株主名簿上は、株式会社千葉銀行名義となっておりますが、実質的に所有していない株式1千株を除く)。
2. 所有株式数は千株未満を切り捨てております。
3. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第3位以下を切り捨てております。

株主優待制度

対象株主 毎年3月31日現在、1,000株(1単元)
以上保有の株主

株主優待制度の内容

オリジナルカタログ(毎年6月送付予定)から千葉県の特産品等または当行及びちばぎんグループの金融商品・サービスの優待*が受けられる株主優待クーポンのいずれかを、保有株数に応じて、お選びいただけます。

保有株数	1,000株以上 10,000株未満	10,000株以上
優待商品	千葉県の特産品等 3,000円相当または 株主優待クーポン1枚	千葉県の特産品等 6,000円相当または 株主優待クーポン2枚

※金融商品・サービスの優待は次の1~5のいずれか1つをお選びいただけます。

1. 定期預金1年もの店頭表示金利0.2%上乗せ(1枚につき1回限り500万円が上限)
2. 外国通貨両替手数料20%割引(1枚につき1回限り割引後レートで日本円100万円相当分のご両替が上限)
3. 遺言信託引受予諾手数料20%割引
4. ちばぎん証券の国内上場株式売買委託手数料20%割引(1枚につき10,000円が上限)
5. ちばぎん総合研究所主催セミナー受講料20%割引(1枚につき1回限り10,000円が上限)



※ 平成23年5月24日に、千葉ニュータウン支店(印西市)内に印西牧の原支店を新設しました。なお、平成23年12月19日に、北総線印西牧の原駅北側の新築店舗に移転予定です。

※ 平成23年7月19日に、四街道支店(四街道市)内に四街道南支店を新設しました。なお、平成24年2月を目処に、四街道駅南側の新築店舗に移転予定です。

※ 平成23年11月7日に、木更津東支店は木更津市東部の「はたる野」地区に移転しました。

コンサルティングプラザ、ローンプラザ

コンサルティングプラザ	3か所(千葉・柏・船橋)
ローンプラザ	4か所(千葉中央・幕張・柏・船橋)

店舗数

県内	157店舗(うち、特別出張所5店舗、出張所12店舗、仮設店舗2店舗)
県外	17店舗(東京都11店舗、大阪府1店舗、埼玉県3店舗、茨城県2店舗)
海外	3店舗(ニューヨーク、香港、ロンドン)
海外駐在員事務所	2か所(上海、シンガポール)



店舗・ATM情報の詳細は左記コードからアクセスして下さい。

平成23年9月30日現在

両替出張所	3か所
自店舗外現金自動設備	262か所(うち、県内259か所)
コンビニATM[E-net]	11,191か所(うち、県内624か所)
セブン銀行との提携による共同ATM	14,598か所(うち、県内865か所)
ローソンとの提携によるATM	8,757か所(うち、県内300か所)

株式会社 千葉銀行

〒260-8720 千葉市中央区千葉港1-2

TEL.043-245-1111 (代表)

<http://www.chibabank.co.jp/>

平成23年12月発行



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。

